



実は、安珍清姫の鐘は実在していた？

初代釣鐘は清姫により焼失したと伝わる。1359年に逸見万寿丸(へんみまんじゅまる)によって寄進されるまで、道成寺には約400年間釣鐘がなかった。その後、人が入れないように小さく作られた写真の二代目釣鐘は、戦国時代の紀州攻めにより持ち去られ、再び釣鐘のない寺となった。

釣鐘がない寺には、今でも能楽や人形浄瑠璃、歌舞伎として語り継がれる物語があった。



熊野参詣の途中に立ち寄った僧・安珍に清姫が恋し、裏切られたと知るや大蛇となって追い、最後には道成寺の鐘の中に逃げた安珍を焼き殺すという「安珍清姫の物語」。道成寺の縁起堂(えんぎどう)で行われる絵とき説法は、室町時代から500年以上続いているという。その内容も口調もまさしく口伝。小野院主も先代の説法を、また先代もその前の院主の説法を聞いて覚えたのだという。絵巻は今でいう動画のようなもので、最後まで見続けると結末はわからないのも魅力のひとつ。絵巻を使った説法は日本で1件だけともいわれている。

道成寺のお土産として有名な釣鐘饅頭。道成寺前だけでなく、御坊市内の和菓子屋でも売られている。



釣鐘がない 和歌山最古寺の 奇跡の軌跡。

国宝三休をお祀りし、安珍清姫の物語で有名な道成寺。創建は701年と東大寺の大仏建立より古く、現存する寺としては、和歌山県最古といわれている。「日本人にとって身近な信仰の場である寺でも、千年以上あり続けるのは1%にも満たないそうです。多くは名を変え場所を変え、さらには廃れてしまうことも珍しくありません。そんな中で、それほど大規模でもない道成寺が1300年以上も続いてきたのは奇跡です。さらに近くから巨大な銅鐸が発見されたことで、この地における信仰の始まりは仏教伝来のはるか以前、弥生時代であったと考えられています」と語るのは道成寺院主、小野俊成さん。

釣鐘がないお寺としてその名前が広く日本中に知られたのは、紀伊水道と熊野街道に近かったことも要因だと考えられている。古代には船の行き来は多くなかったとは言え、都と東日本との間の物資や情報が紀伊水道を通じて運ばれました。また熊野詣で訪れた多くの人々も、当寺まで足を伸ばし、あの男女のゴシップの寺は、本当にあったんだと故郷で土産話に花を咲かせたのかもしれない。平和な世の中では、こういうゴシップが人気で、さらに拡散されたのでしょう。しかし、ここは弥生時代から続く神聖な場所。そんな聖俗併せ持つ存在だからこそ、道成寺の信仰が今も続いているんだと思います。



道成寺(どうじょうじ)
住所/日高郡日高川町鐘巻1738
電話/0738-22-0543

始まりは、かみなが姫、の物語

かみなが姫、とは、道成寺周辺の村長の娘で、藤原宮子(ふじわらのみやこ)のこと。その美貌と才能を見込まれ、藤原家に入り文武天皇の夫人となった。その宮子の願いを受け、文武天皇が建立したと伝わるのが道成寺。下/道成寺に寄贈されたかみなが姫の絵巻物で、紀州の嫁入り道具のひとつだったという。



道成寺近くの水田から1762年に出土した鐘巻銅鐸(かねまきどうたく)。制作年代は1世紀後半から3世紀初頭とされ、現存高は116センチで国内最大級といわれている。(推定復元高は120センチで国内2位)



国宝

千手観音菩薩像



道成寺の宝仏殿に安置されている国宝・千手観音菩薩像。両脇に立つ日光・月光菩薩像も国宝である。見学者と像の間には何もなく、神々しさを身近に感じることができる。なお本堂に安置されている千手観音立像(重文)は、奈良時代の作で、日本で三番目に製造された像といわれている。